

地 理 歴 史

1 学習指導と評価の改善・充実

地理歴史科においては、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深めることを通して、歴史的思考力と地理的な見方や考え方を培うことが求められていることから、北海道教育委員会としては、これまで10年経験者研修「教科指導等研修」をはじめ、各種の研修会等において、指導と評価の一体化を進めるなど生徒の歴史的思考力や地理的な見方や考え方を育成する学習指導と評価の工夫・改善を推進してきたところである。

国立教育政策研究所教育課程研究センターが平成17年12月に刊行した「平成15年度高等学校教育課程実施状況調査報告書」(以下、「報告書」という。)では、地理歴史科にかかわるいくつかの課題が新たに指摘された。本手引では、「報告書」で指摘された課題に対する指導上の改善点として、次の三点を取り上げるとともに、マネジメントサイクルによる学習指導と評価の改善・充実について説明する。

(1) 「報告書」で指摘された課題に対する指導上の改善点

歴
史

世界史を学ぶ意味・意義を実感させる指導の工夫
我が国の歴史や人類の課題、現代世界の特質などを相互に関連付けるなどの工夫をしつつ、生徒が現実を見つめ、世界史を学ぶ意味・意義を実感できるような指導を行うことが大切である。
多面的・多角的に考察させる指導の工夫
歴史的思考力を培うためには、歴史的事象の推移や変化、相互の因果関係などを、時間軸の中で多面的・多角的にとらえさせることが大切である。

地
理

複数の資料を読み取ったり、多面的・多角的に考察したりできる力を育む指導の充実
複数の資料を関連付けて読み取ることができる技能を培う学習や、他地域や複数の資料との比較、関連付けを基に、地理的事象の間の一般性や関係性などを考察させる学習を指導することが大切である。

(2) マネジメントサイクルによる学習指導と評価の改善・充実

「報告書」で指摘された課題を効果的に解決するためには、次のマネジメントサイクルによる学習指導等の改善・充実を併せて行うことが大切である。

ア 生徒に身に付けて欲しい学力など、具体的な到達目標を設定し、指導計画・評価計画をはじめ、シラバスを作成する。(計画)

イ ワークシート等を効果的に活用するなど、到達目標を達成するための効果的な指導を取り入れた授業を展開する。(実践)

ウ 工夫したワークシートやペーパーテスト等を活用して生徒の学習の成果を評価するとともに、教師自らがカリキュラム全体を検証する。(評価)

エ ウの教師による自己評価と、生徒の学習成果の評価結果に基づいて、後の学習指導等の改善(A)を図る。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

前項を踏まえ、各科目におけるシラバス、ワークシート、ペーパーテストを例として、具体的な取組を次に説明する。また、学習指導等の改善(A)については、教師の自己評価を例として、28ページに示す。

P 計画 到達目標等を明確に示したシラバスを作成する。

単元のシラバスの例

科目名 世界史B 単位数 4 教科担任 北海 太郎 学年 () 組 () 番号 () 名前 ()

| 単元名 | (2) 諸地域世界の形成 ウ 東アジア・内陸アジア世界の形成 | 実施時間 | 9 単位時間 |
|---|--------------------------------|-------|---------|
| 単元の目標 | 観点毎の単元の到達目標(身に付けて欲しい学力) | | |
| 東アジア・内陸アジアの風土、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れながら、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を追究し、考察する。 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 資料活用・表現 |
| | 知識・理解 | | |

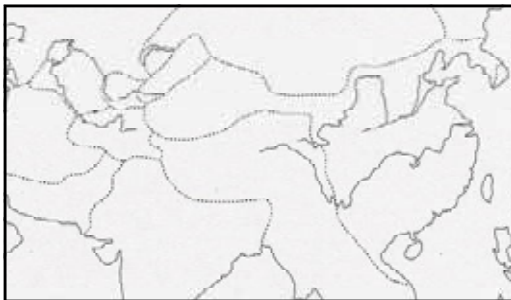
他の教科・科目との関連 地理歴史科・日本史B(2)原始・古代の社会・文化と東アジア ア日本文化の黎明

| 時限 | 学習項目 | 学習の要点 次のポイントに注意して授業に参加しよう! | 到達目標 次のことができるように学習に取り組もう! | 自己評価 ABCDで評価! 習 意 解 | 評価の方法等 |
|----|---------------|--|--|---------------------------|----------------------------|
| 1 | ・中華文明の成立 | ・東アジアの自然環境 ・東アジア独特の生活様式、文化の特徴 | ・自然と生活の様子を調べて、農耕等の様々な形態を把握し、中華文明の重要な要素が現れたことに気付いている。 | 疑問に思ったこと | ワークシート 授業への参加状況 |
| 5 | ・秦・漢帝国と周辺の諸民族 | ・秦の統一政策、漢の中央集権政策 ・漢の武帝の外交政策 ・後漢と周辺諸国との関係 | ・漢の外交政策と周辺諸国との関係について考察し、日本を含む東アジア世界の骨格が形成された過程を把握している。 | 疑問に思ったこと | 作成した白地図 ワークシート 1 |
| 9 | | | | | 小テスト 2 |

D 実践 ワークシートを効果的に活用した授業を行う。 **1**

ワークシートの例 「秦・漢帝国と周辺の諸民族」

1 漢の武帝の外交政策 [資料活用・表現]



【前漢時代のアジア】

教科書や資料集で調べて白地図に書き込もう。

- (1) 前漢の領域を黒線で囲もう。また、前漢の都を で示そう。さらに、 の下に都の名前を書き込もう。
- (2) 大月氏の領域を赤線で囲もう。
- (3) 大月氏に派遣された張騫の経路を黒点線で示そう。

(4) 張騫が大月氏に派遣されたことによる成果や東アジア世界への影響を調べてまとめよう。

2 後漢と周辺諸国との関係 [思考・判断]

教科書や資料集で、後漢と日本との関わりを中心に調べてみよう。

- (1) 後漢の光武帝が倭の奴国と関わりのあったことを示す史料はア()です。アの史料にはどのようなことが書かれているか調べてまとめよう。
- (2) 倭の奴国の使者が光武帝から賜った金印にはイ()と記されていました。
- (3) 金印に記されていたイの言葉は、どのような意味か考えをまとめてみよう。
- (4) なぜ倭の奴国は後漢に使者を送ったのか、考えをまとめてみよう。

作成上の留意点

ワークシートは、生徒が本時の学習の到達目標を実現できるよう工夫すること。

[資料活用・表現]の力を身に付けさせるために、教科書や地図、資料集等を活用して、学習内容を白地図や自らの言葉でまとめさせるなど、生徒に追究し考察させたり、追究し考察した過程や結果を表現させたりすることができるようにすること。

[思考・判断]の力を身に付けさせるために、追究し考察した結果を踏まえて新たな課題を設定し、その課題について見通しを持ってさらに考察し、歴史的意義を判断させるよう工夫すること。生徒が考察した点を互いに分析したり、まとめたことを発表したりするなど、様々な学習活動を取り入れ、学習の効果を高めるよう工夫すること。

C 評価 小テストにより、生徒の到達度や指導の成果を評価する。 2

作成上の留意点
 小テストは、単元の到達目標に照らして、生徒の学習の成果を4つの観点に基づいて評価できるよう工夫すること。
 [思考・判断]の観点から評価するために、生徒の多様な考え方を表現できる設問を用意したり、設問で「なぜ」といった理由を問うなどの工夫をしたりするなどして、生徒の理解の状況を把握すること。
 また、図版や文献史料など、複数の資料を提示し考察させることで歴史的事象の背景を分析し、的確に歴史的意義を判断できるか確認すること。
 さらに、小テストの結果から指導方法や指導内容の工夫・改善を図ること。

小テストの例 「東アジア・内陸アジア世界の形成」

- 漢の武帝の外交政策について、問いに答えなさい。[思考・判断]
 - 古くから東西の交流に大きな役割を果たし、文化の相互発展に役立ってきたオアシスの道(シルク＝ロード)がひらけるきっかけとなった出来事を書き、なぜその出来事がきっかけとなったのか理由を書きなさい。
 - 漢の武帝が大軍を送って匈奴を北方に退けるなど、積極的に外交政策を行ったことが、漢に与えた影響を書きなさい。
- 次の資料1、2から読み取ることができることとして誤っているものを、ア～エから選びなさい。[思考・判断]



資料1 福岡県で見つかった金印

建武中元二年、倭の奴国、貢を奉じて朝賀す。
 (中略)
 光武、賜ふに 印綬を以てす。
 西暦57年
 印は資料1の金印、綬は組紐

資料2 「後漢書東夷伝」の記述

- ア 光武帝は倭の奴国の使者に金印を渡した。
 イ 光武帝は倭の奴国に使者を送った。
 ウ 倭の奴国は漢に貢ぎ物を贈った。
 エ 倭の奴国の王は漢から国王と認められた。

日本史

P 計画 到達目標等を明確に示したシラバスを作成する。

単元のシラバスの例

科目名 日本史B 単位数 4 教科担任 北海 太郎 学年 () 組 () 番号 () 名前 ()

| 単元名 | 国際環境の変化と幕藩体制の動揺 | | | 実施時間 | 5 単位時間 |
|--|--|---|--|---|----------------------|
| 単元の目標 | 観点毎の単元の到達目標 (身に付けて欲しい学力) | | | | |
| 欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想及び産業の新たな展開に着目して、幕藩体制の動揺と近代化の基盤の形成について理解する。 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 資料活用の技能・表現 | 知識・理解 | |
| | 幕藩体制の動揺と近代化の基盤の形成に関する考察を通して、幕府の内政と外交についての課題意識を高め、幕政の課題を意欲的に追究している。 | 幕藩体制の動揺と近代化の基盤の形成から課題を見だし、欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想及び産業の新たな展開と関連付けて多面的・多角的に考察している。 | 幕藩体制の動揺と近代化の基盤の形成に関する文献、絵画、地図、統計・グラフなどの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。 | 幕藩体制の動揺と近代化の基盤の形成について、内政と外交、文化にかかわる基本的な事柄を、欧米諸国のアジアへの進出など関連付けて理解し、その知識を身に付けている。 | |
| 他教科・科目との関連 | 地理歴史科・地理B(3)現代世界の諸課題の地理的考察 ク民族、領土問題の地域性 | | | | |
| 時限 | 学習項目 | 学習の要点 | 到達目標 | 自己評価 | 評価の方法等 |
| 1 | ・享保の改革と田沼時代 | 次のポイントに注意して授業に参加しよう! ・享保の改革(足高の制、上米など) ・田沼時代(専売制、蝦夷地調査など) | 次のことができるように学習に取り組もう! ・享保の改革と田沼時代の施策を比較することにより、幕府の財政再建策の違いについて理解している。 | ABCDEFで評価! 予習 意識 理解 疑問に思ったこと | ワークシート 授業への参加状況 |
| 5 | ・幕藩体制の危機 | ・列強の接近と諸事件 ・鎖国政策に対する批判 ・ゴローニン事件 | ・ロシアやアメリカなどの欧米列強の接近に対する幕府の対応について、資料を活用して考察している。 | 疑問に思ったこと | ワークシート 1 発表の内容や方法 |
| | | | | | 定期考査 2 |

D 実践 ワークシート等を効果的に活用した授業を行う。 1

ワークシートの例 「幕藩体制の危機」

1 次のことを教科書で調べ、まとめてみよう。[思考・判断]

- (1) 根室に来航したラクスマンに対する幕府の対応を書きなさい。

- (2) 長崎に来航したレザノフに対する幕府の対応を書きなさい。

- (3) アメリカ商船モリソン号に対する幕府の対応を書きなさい。

- (4) あなたなら、これら外国船の来航に対して、どのような対応を取るべきだと考えますか。理由とともに書きなさい。

2 次のことを教科書、インターネットで調べてみよう。[資料活用の技能・表現]

- (1) ゴローウニンについて次の ~ を調べて書きなさい。

ゴローウニン

どこの国の人か。 職業は何か。
なぜ、ゴローウニンは箱館、松前で生活したのか。
帰国した後の業績は何か。

- (2) ゴローウニン事件を詳しく知るためには、どのようなことを調べたらよいですか。調べるようとする事項を書きなさい。

- (3) ゴローウニン事件について、グループで発表する内容を書きなさい。

作成上の留意点

ワークシートは、生徒が本時の学習の到達目標を実現できるように工夫すること。

[思考・判断]の力を身に付けさせるために、歴史的事象について調べることを通して、その特徴と当時の国内外の情勢とを関連付けて、問題の所在や解決の方向を追究、考察するといった一連の活動を体験できるように工夫すること。

[資料活用の技能・表現]の力を身に付けさせるために、インターネット等を用いて、調べようとする事項をワークシートに書かせること。

C 評価 定期考査により、生徒の到達度や指導の成果を評価する。 2

作成上の留意点

定期考査は、単元の到達目標に照らして、生徒の学習の成果を4つの観点に基づいて評価できるよう工夫すること。

[思考・判断]の観点から、学習の成果を評価するために、授業で扱っていない史料等を提示し、学習の過程で身に付けた知識をもとに考えたり、判断したりしたことを書かせるように工夫すること。また、史料等の内容から歴史的事象の背景などを読み解き、それに関連付けて北方領土問題等の時事問題について多面的・多角的に考察させるなどして、生徒の歴史的思考の深化について評価すること。

さらに、生徒の理解の状況から指導方法や、指導内容の工夫・改善を図ること。

定期考査の例 「国際環境の変化と幕藩体制の動揺」

1 史料1を読み、問いに答えなさい。[思考・判断]

- (1) これは、江戸時代中期の医師工藤平助が著したものです。書名を書きなさい。また、史料から工藤平助の主張を読み取り、まとめなさい。

書名 _____
主張 _____

- (2) 史料1の著者の考えを採用した老中は誰か書きなさい。また、その人物が行った蝦夷地に関する政策を次の語句を使って説明しなさい。

「 _____ 最上徳内 国後・択捉 俵物 ロシア人 交易 」
人物 _____
政策 _____

2 史料2を読み、問いに答えなさい。[思考・判断]

- (1) これは、ゴローウニンが帰国後に著したものです。書名を書きなさい。また、この史料からゴローウニン事件がどのように解決したと考えられるか書きなさい。

書名 _____
考えられること _____

- (2) これは、ゴローウニンが箱館からロシアへ帰国する時の様子です。この史料から近隣諸国との友好関係について、あなたが考えたことを書きなさい。

【史料1】さて日本の力を増すには蝦夷地の金山をひらき、ならびにその出産物を多くするにしくはなし。蝦夷の金山を開く事、昔より山師共のいふらす所なるが、入用と出高と相当せず、これに依りすたれあるところなり。然に先に云所のヲロシアと交易の事おこらば、この力を以て開発ありたき事なり。この開発と交易の力をかりて、蝦夷の一国をふくじゅうせしめば、金、銀、銅に限らず一切の産物皆我国の用を助くべし。右交易の場所あながち蝦夷にも限るまじ。長崎をはじめすべて要害よきみにとひきうけてよろしき事なり。右に申す通り日本の力をますこと蝦夷にしく事なし。

【史料2】いよいよ本艦が湾口に達した時、われわれの親友たるこの日本人たちは心から訣別の挨拶を述べた。その時われわれは少しばかりの贈物をした。向うでは「もう沢山頂きましたので」と云ったが、強いて押しつけた。一同が本艦を離れる時、双方から「ウラー！（万歳！）」と叫んで、お互の幸福を祈り、ロシアと日本の善隣関係が一時も早く結ばれんことを念じた。小舟に乗った日本人たちは、姿の見える間は休みなく礼をしていた。しかしその時順風が吹き出して、本艦はずんずん進んで行った。

P 計画 到達目標等を明確に示したシラバスを作成する。

単元のシラバスの例

科目名 地理B 単位数 4 教科担任 北海 太郎 学年 () 組 () 番号 () 名前 ()

| 単元名 | 人口、食料問題 | 実施時間 | 5 単位時間 |
|--|---|--|--|
| 単元の目標 | 観点毎の単元の到達目標(身に付けて欲しい学力) | | |
| 人口、食料問題を世界的視野から地域性を踏まえて追究し、それらが地球的課題であるとともに各地域によって現れ方が異なっていることをとらえ、その解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることなどについて考察する。 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 資料活用の技能・表現 |
| | 知識・理解 | | |
| | 人口、食料問題の現状や問題の所在、解決の方向を世界的視野から各地域の環境条件などと関連付けて意欲的に追究するとともに、その解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることをとらえようとしている。 | 人口、食料問題に関する課題を設定し、それらを世界的視野から地域性を踏まえて多面的・多角的に追究するとともに、その解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることを考察している。 | 人口、食料問題に関する資料を収集し、情報を適切に選択、活用することを通して地理的に追究する技能を身に付けるとともに、追究、考察の過程や結果をまとめて、発表し、身付けている。 |

| 他教科・科目との関連 | | 公民：政治・経済 (3)現代社会の諸課題 イ 国際社会の政治や経済の諸課題 | | |
|------------|---------------------------|--|---|--|
| 時限 | 学習項目 | 学習の要点 | 到達目標 | 自己評価 |
| 1 | ・世界の人口分布 ・人口問題の地域性 | 次のポイントに注意して授業に参加しよう！ ・偏在する世界の人口の分布 ・人口の構成と転換 | 次のことができるように学習に取り組もう！ ・人口分布についての統計をグラフ化することにより、学習に役立つ情報として適切に選択し活用している。 ・人口問題を的確にとらえ、各地域の環境条件などと関連付けて考察している。 | 自己評価 ABCDで評価！ 予習 意欲 理解 疑問に思ったこと |
| 5 | ・発展途上国の人口増加と食糧不足 | ・中・南部アフリカ諸国の人口爆発と農業・食糧問題 | ・人口増加の伸び率と食料生産の伸び率との比較から「飢餓状態」を理解している。また、農業と食料との関係について多面的・多角的に考察している。 | 自己評価 疑問に思ったこと |
| | | | | 定期考査 2 |

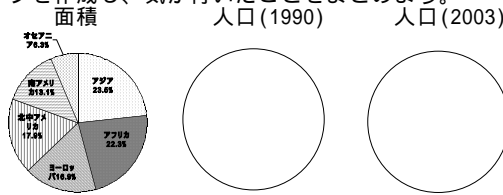
D 実践 ワークシートを効果的に活用した授業を行う。 1

ワークシートの例 「世界の人口問題について考えよう」

1 世界の人口分布 [資料活用の技能・表現]

(1) 次の表のデータを利用して円グラフを作成し、気が付いたことをまとめよう。

| | 面積 | | 人口 | | | |
|--------|-------------------|-------|--------|-------|--------|-------|
| | 百万km ² | % | 1990年 | | 2003年 | |
| アジア | 31.8 | 23.5 | 3181.0 | 60.4 | 3823.0 | 60.7 |
| アフリカ | 30.3 | 22.3 | 615.0 | 11.7 | 851.0 | 13.5 |
| ヨーロッパ | 23.0 | 16.9 | 722.0 | 13.7 | 726.0 | 11.5 |
| アメリカ | 42.1 | 31.0 | 722.0 | 13.7 | 869.0 | 13.8 |
| 北中アメリカ | 24.2 | 17.9 | 427.0 | 8.1 | 507.0 | 8.0 |
| 南アメリカ | 17.8 | 13.1 | 295.0 | 5.6 | 382.0 | 5.7 |
| オセアニア | 8.5 | 6.3 | 26.0 | 0.5 | 32.0 | 0.5 |
| 世界計 | 135.7 | 100.0 | 5266.0 | 100.0 | 6301.0 | 100.0 |



2 人口問題の地域性 [資料活用の技能・表現][思考・判断]

(1) 地図帳の統計資料を活用して、次の表を完成させよう。なお、Aには、それぞれの区分に属する国名や地域名を、Aには、「経済的な国の豊かさ」を示す指標を考えて記入し、それぞれのデータを調べよう。

| 区分 | No. | 国名 | 人口(万人) | 出生率(‰) | 死亡率(‰) | 自然増加率(‰) | 乳児死亡率(‰) | 老年人口率(%) | A |
|---------|-----|--------|--------|--------|--------|----------|----------|----------|---|
| 先進国 | | 日本 | 12,768 | 8.9 | 8.0 | 0.9 | 3.0 | 18.0 | |
| | | ドイツ | 8,269 | | 10.1 | | 4.3 | 15.8 | |
| | | スウェーデン | 904 | 10.7 | 10.6 | 0.1 | 3.3 | | |
| N I E S | | 大韓民国 | 4,781 | 10.4 | 5.2 | 5.2 | | 6.8 | |
| | | シンガポール | 432 | 9.8 | 3.8 | 6.0 | 3.0 | | |
| | | ホンコン | 704 | 7.1 | 5.0 | 2.1 | 2.3 | 10.7 | |
| 発展途上国 | | カンボジア | 1,407 | 34.3 | 12.7 | 21.6 | | | |
| | | イエメン | 2,098 | | 10.4 | 37.3 | | | |
| | | アンゴラ | 1,549 | 48.4 | 18.8 | 29.6 | 126.2 | | |

(3) (2)で読み取ることができたこと背景や要因を地域の環境条件の観点から考えよう。

作成上の留意点

ワークシートは、生徒が本時の学習の到達目標を実現できるよう工夫すること。

[資料活用の技能・表現]の力を身に付けさせるために、統計データを活用してグラフ化させたり、地図化させたりするなど、生徒が地理的技能を活用して、地理的事象を見出すことができるよう工夫すること。

[思考・判断]の力を身に付けさせるために、生徒が見出した地理的事象をもとに、課題を設定させ、地域の環境条件などと関連付けるなどして、問題の所在や解決の方向を追究、考察するといった一連の活動を体験できるように工夫すること。

C 評価 定期考査により、生徒の到達度や指導の成果を評価する。 2

作成上の留意点

定期考査は、単元の到達目標に照らして、生徒の学習の成果を4つの観点に基づいて評価できるよう工夫すること。

[思考・判断]の観点から評価するために、授業で扱った国名や数値等を直接問わず、授業において身に付けた地理的な概念について問うなど、学習の過程で身に付けた知識を組み合わせ、解答を導くような設問を工夫すること。

また、判断した理由を問うことで、解答に至った思考の過程や生徒の理解の状況を確認すること。

さらに、生徒の理解の状況から指導方法や、指導内容の工夫・改善を図ること。

定期考査の例 「人口問題」

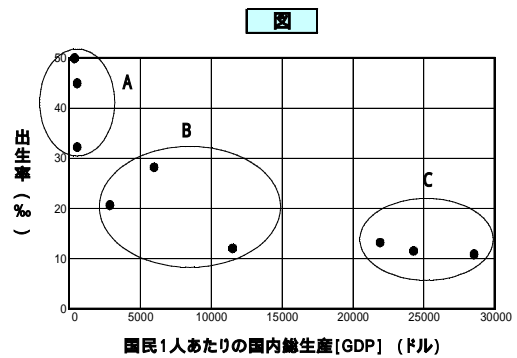
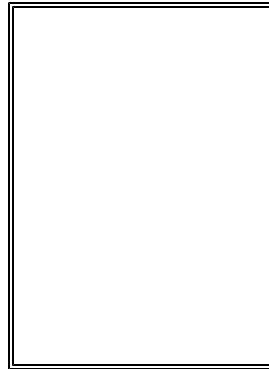
1 次の図は、～の9か国の出生率と国民1人当たりの国内総生産の関係を示したもので、図中において位置に近い国を3か国ずつA～Cの3つのグループに分けたものです。これを見て、(1)、(2)に答えなさい。[思考・判断]

(1) イタリア、エチオピア、台湾の3つの国及び地域を、図中のA～Cのグループに分けるときの、組み合わせとして正しいものを、ア～エから選びなさい。

- | | | | |
|---|-----------|-----------|-----------|
| ア | A : エチオピア | B : イタリア | C : 台湾 |
| イ | A : 台湾 | B : エチオピア | C : イタリア |
| ウ | A : エチオピア | B : 台湾 | C : イタリア |
| エ | A : 台湾 | B : イタリア | C : エチオピア |



(2) (1)であなたが選んだ答えについて、なぜ、この組み合わせが正しいと考えたのか、書きなさい。



A 改善 教師による学習指導等に関する評価等の結果を改善に生かす。

学習指導等を改善・充実させるためには、次のような「学習指導等に関する評価票」(例)を作成して、教師自らが評価を行い、その結果を分析するなどして、課題等の解決に向けた改善を図っていくことが大切である。

また、評価の客観性や信頼性を高めるため、必要に応じて数値目標を取り入れた評価項目を設定したり、生徒等による授業評価を実施したりして、教師による自己評価結果と比較することが必要である。こうした評価を通して学習指導等の改善・充実を図ることが大切である。

学習指導等に関する評価票(例)

| | | 評 価 項 目 | | | |
|------------------------|---|--|---|---|---|
| | | A | B | C | D |
| 科目 (地 理) | 1 | 昨年度の自己評価に基づいて改善を図った、今年度の「到達目標」は適切である。 A : そう思う B : だいたいそう思う C : あまり思わない D : 思わない | | | |
| | 2 | シラバスの自己評価の「意欲」の欄に「A」を記入した生徒の数が、クラスの生徒の80%を超えている。 評価基準 A : 80%以上 B : 60%以上 C : 40%以上 D : 40%未満 | | | |
| | 3 | ワークシートの2の(1)の表を正しく完成させた生徒の数が、クラスの生徒の80%を超えている。 評価基準 A : 80%以上 B : 60%以上 C : 40%以上 D : 40%未満 | | | |
| | 4 | 定期考査の1の(1)について、クラスの生徒の正答率が80%を超えている。 評価基準 A : 80%以上 B : 60%以上 C : 40%以上 D : 40%未満 | | | |